

JA北つくばは 営農指導事業の強化に 取り組んでいます

JA北つくばは、JA自己改革に取り組むにあたり、「農業者の所得増大への貢献」を大きな柱とし、「営農指導事業」の強化を進めています。営農指導は、組合員の営農全般の活動を支援・指導し、その改善を図っていく重要な事業です。JAでは、支店や営農経済センターに営農指導を行う「営農指導員」を配置し、出向く体制の強化を図っています。また、今年度からは新たな取り組みとして、営農関連業務の専門性に特化した営農指導、青果物販売、米販売の専門担当の窓口（専門業務従事者）を設け、長期的に育成を行い、農業者の皆さまの所得増大の実現を目指しています。



JAの営農指導事業

JAの営農指導事業は、単に技術指導を行うだけでなく、農畜産物を安定的に供給していくためのマーケティング対策や組合員経営全般について指導し、生産から流通までの仕組みをJAの総合的な支援援助をすることによって、個々の農家では難しい所得の増大を集団の力で実現していく事業です。それらの事業に携わるのが「営農指導員」です。

営農指導員の役割

JAの営農指導員は、農畜産物の栽培・育成についての指導や販売の支援、農業経営の相談・指導、市場の情報提供、新しい作物や技術の導入など、農業者の営農支援の活動を行います。また、担い手の育成や安全・安心な農畜産物生産の体制づくり、生産部会活動の支援など営農振興に関わる活動も行います。営農指導員はJAの顔と言われるように、JAと農業者を結ぶパイプとして重要な役割を担っており、そのため農業者の田畑や集荷・選果場等へ出向くフィールドワークが中心になります。

営農指導員は、こんな活動をしています

●担い手づくり

地域農業の中核となる担い手の育成を基軸に、多様な担い手及び組織活動に対する支援活動を通じ、JAと組合員との結びつきの強化を図ります。



●コーディネート

組合員の営農活動に係わるJA営農関連事業の全体をコーディネートし、また営農指導に係わる最新の情報・技術・アイテムを活用して、営農事業活動による組合員メリットの最大化を図ります。



●地域農業振興

地域農業を創造し振興方針及び生産計画の樹立と実践支援を行い、組合員の営農活動基盤である地域農業の振興と強化を図ります。



●営農技術指導

組合員の営農についての相談を行い、品目の選定や栽培技術、販売活動を通じ農業経営の総合的な指導を行い、農業所得の増大と経営の向上を図ります。



JA北つくば専門業務従事者紹介

JAは今年4月から、農業者所得の増大に向けた取り組みとして、営農指導や青果物・米の販売業務のプロを長期間にわたり育成し、営農指導業務の体制強化を図る「専門業務従事者」を配置しました。

結城市の西部営農経済センター営農販売課に所属する吉村哲哉さんは、結城園芸部会レタス部と青色申告会を担当し、栽培技術や農業経営の営農指導を通じて、生産者と共に安全で安心な農産物を消費者にお届けするお手伝いをしています。また係長として、部下の指導や育成などにも積極的に取り組んでいます。



Tetsuya Yoshimura

―担当する結城園芸部会レタス部、青色申告会について教えてください―

平成25年4月からレタス部を担当しております。同部は、菅井好部会をはじめ130人の生産者が春レタス約109トン、秋冬レタス約1000トンを作付けし、今年度は約730万トン、販売金額10億円を目指しています。部員の皆さんが生産するレタスは結城市の野菜としては白菜について2番目の生産量を誇り、肥沃な土地を生かし生産された新鮮なレタスは、「結城産」として市場でブランドが確立されています。また、茨城県銘柄指定産地にも認定されており、名実ともに結城市を代表する野菜となっています。

青色申告会（大澤吉己会長）は農業を営む個人を構成員とした会員制組織で、会員を対象に税務研修、申告相談、記帳指導、JA取引データの提供等を行う組織です。平成26年4月から担当となり、現在は90人の生産者に入会していただいております。

―担当者として心掛けていることはありますか―

レタス産地の担当者として、先輩方が築いてきた歴史と伝統を守ることはもちろん、魅力あるレタス栽培を次世代に伝えていく取り組みが重要だと感じています。後継者や担い手の確保、産地発展のためには更なる販売力の強化とブランドの確立が必要です。そのためには高品質なレタス生産が必要不可欠になりますので、私たち営農指導員が的確なアドバイスや情報を提供し、有利販売できるレタスの生産、販売を支援していきたいと考えております。

青色申告会は、顧問税理士優待会のご指導の下、記帳指導などの学習会を年間の8回程度開き、会員の合理的納税、税務経理の習得に努めています。会員の知識向上を図り、日常の帳簿記帳、経理事務等の軽減を進めています。農業に専念し



競合産地の調査結果を報告

―専門業務従事者としての意気込みを聞かせてください―

行政や研究機関などの各関係機関と連携し、栽培技術の更なる向上と、コスト削減、各種補助金、生産資材の提案など生産者の視点に立った事業提案をしていくことや、後輩の指導・教育などにも力を注ぎ、JA営農指導員全体のレベルの底上げを図っていきたいと思います。JAと生産者の信頼関係を構築することで、生産者が安心して青果物を生産できるように、専門的知識、技術指導などを習得し、農業所得増大に貢献できるように、努力していきたいと考えております。



目揃え会で生産者と規格を確認